

# 日米医学医療交流財団 アメリカ短期看護研修助成

## 研修報告書 (2015年度 助成者)

作成日 2015年10月26日

氏名 (フリガナ)	市川 瑞希 (イチカワ ミズキ)
研修地	アメリカ・オレゴン州ポートランド市
研修期間	2015年10月11日(日)～10月17日(土)
所属機関名	滋賀医科大学附属病院
身分	看護師

研修では尊厳死、マグネットホスピタル、プロトコールに沿った迅速な医療を提供できるシステムなどたくさんの方の事を学ばせていただきました。本来であれば全ての研修内容について感じたこと、学んだことなどを報告させていただくべきですが、書ききれないほどたくさん学び得たことがありました。そのため特に心に残ったこと、印象深かった内容を抜粋して報告させていただきます。

まず、とても印象に残ったリーダーシップに関して報告します。今回のリーダーシップ研修の冒頭で「誰かに何らかの影響を及ぼす可能性を持っている人、その役割を担っている人はみんながリーダー。」というお話に心を打たれました。リーダーシップを発揮できるということは患者の急変や災害発生などの緊急時だけでなく、日々の仕事の中でも必要なことです。私の中でのリーダーという存在はある組織の上にいる存在で上から下に指示を出すものだと考えていました。しかし今回の研修ではリーダーとはビジョンや指示を押し付けるのではなく、人を引きつけて一緒に目標に向かって進みたいと思わせる影響力を発揮する存在だと学びました。私自身のことを振り返ると、日々仕事をしていても「私はまだ3年目で先輩看護師がいてくれる」というように自分がリーダーであるといった自覚もあまりなく、他人に頼っている部分があると今回の研修を通じて感じました。アメリカでお出会った方はみんな、看護師という仕事にプライドと責任を持ち、とても楽しく仕事をされているように感じます。その生き生きとした働き方も周りの人に影響を及ぼし、楽しい雰囲気を作り出して行くのではと思いました。患者やその家族、その他の医療スタッフとともに仕事に携わる中で、私自身が看護師の仕事により一層プライドと責任をもって勤めて行きたいと、今回の研修を通じて考え方が変わりました。

チャイルドケア研修ではドッグセラピーを始め、人形を使った様々な活動が行われていると知りました。勤務先の病棟の特性上、成人から高齢者への関わりが多く、「医療者側が話した内容を患者と家族は理解してくれる」といった前提で今まで関わってきました。しかし子供の場合はなぜその治療をする必要があるのか、手術や検査はどのようなものかなど、私が「患者が理解してくれて当然」と思い込んでいたものをきっちりと説明をしなければいけないのだと改めて感じました。子供本人が治療を受ける場合もちろんですが、私は治療を受ける患者の家族に小さな子供がいても同様のケアが必要だと思います。子供が兄弟や家族の死を受け入れなければいけなかったり、子供自身が治療に対する理解や満足を得られないまま成人してしまうと、心の傷が成人してから表に出てしまうといったケースもあると知り、心のケアの重要性を再確認しました。日本ではまだチャイルドケアに携わる方の数が少なく、患者とその家族に接する機会の多い看護師がその役割を担う必要がある場合も考えられます。チャイルドケアには児童心理学や発達過程に応じたコミュニケーションツールが必要ですが、そういった環境にある家族に寄り添えるような看護を提供できるようになりたいと思いました。またより多くの人にこの活動を普及していく必要があると感じました。

出国前、私は今回の研修を通して業務だけでなく、病棟スタッフの一員としてマグネットホスピタルの仕組みを学びたいと考えていました。日本では病院機能評価といった病院全体の評価基準が普及していますが、マグネットホスピタルの評価はどのような看護を受けることができるかといった看護主体のものでした。在院日数や病院に対する考え方など日米間で差があると思いますが、より質の高い看護を提供するための評価基準はとても興味深いものでした。働いているスタッフが職場に対して満足していなければ、より良い看護を提供することはできないという考えも興味深く、ワークライフバランスを考え、改善点を探していくところなど、日々

の業務の中でも活かしていけたらと思います。

また一緒にさせていただいたメンバーの方も様々な分野でご活躍されている素敵な方ばかりでとても刺激を受けました。今回のツアーでは最年少でしたが、日本での看護経験を活かし自分の看護をより広げようとされている姿に習い、より多方面から患者をみることができる看護師になりたいと思いました。現地スタッフの方や空港までお見送りにきて下さった日米医学医療交流財団の方、開催会社の方など、今回の研修に関わって下さった全ての方に感謝します。本当にありがとうございました。